

大山町ひと・くらし・しごと創生総合戦略外部検証委員会結果

(令和5年度 実施事業の検証) 事業評価においては総合戦略のKPI達成に有効

番号	事業名称	事業内容	主な意見
1	すべての世代の楽しさ自給率を向上させる 年少世代の人材育成と総合・探求教育の仕組みづくり 若者世代の生活スタイルの多様性に応じた語り場づくり「テゴテゴプロジェクト」 実績額：896,500円	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社アマゾンラテルナ鳥取大山オフィスに業務委託。 大山町の子どもの「やってみよう」「なっとならいいな」を掘り起こし、町政や地域づくりに活かすため、中学生議会を実施した。 3/9の中学生議会では11名の中学生が参加し、6件の質問(提案)をすることができた。 また、その様子を町の広報誌や大山チャンネル等で広く発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「テゴテゴプロジェクト」 子どもたちが「住み続けたい」「戻りたい」と思う町をつくるための良い事業であったと思う。 今後は意見を言うだけで終わることなく、実際に提案実現ができるものは地域団体や住民と協力して実施してもらいたい。 中学生の大山町に対する思いや、暮らしの改善等の意見を議会形式にて直接町長・教育長へ提案することで、人材育成、地元愛を育む良い事業だったと思う。 前回の中学生議会での声から実現した政策もあることから、今回議会での提案も実現に向かえば、参加した中学生及びアンケートに答えた中学生の更なる住んでいる町や議会に対する関心が高まったと考える。 興味を向上させる事で楽しさの好循環に成り得る。 中学生議会では町議会を身近に感じられるだけでなく、地元が抱える課題に向き合う良い機会になっていると思う。
2	定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 定住施策(PPP/PFI)の推進「大山町定住促進子育て住宅整備事業アドバイザー業務委託」 実績額：548,075円	<ul style="list-style-type: none"> 実施方針(案)の作成支援 PFI法第5条第2項の各号に規定する内容について実施方針(案)としてまとめるとともに、専門的見地及びこれまでの経験を踏まえた検証を行い、実施方針(案)を作成する。 要求水準書作成支援 事業者の創意工夫、ノウハウ等を最大限に発揮することを意図した性能発注の視点に留意して検討を行い、町営住宅の施設整備、維持管理に関して、本町が民間事業者を求めるサービス水準を示す要求水準書(案)を作成する。 実施方針公表に関する事業者向け説明会の開催支援 実施方針等の公表に際し実施する説明会の開催支援(資料や議事録の作成等)を行う。 実施方針の公表 事業者からの質問・意見等について取りまとめるとともに、質問・意見等に対する回答書を作成する。また、質問・意見等を取りまとめた結果を踏まえ、必要に応じて要求水準書の修正案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> PFI事業を行うにあたって専門的技術的支援は必要だと思う。よりよい定住促進子育て住宅整備になるようにしてほしい。 PFI事業は、専門的知見が必要な業務であることから、アドバイザー業務委託は不可欠。 子育て世帯への支援を行い定住を促進させる事業であるが、他のアパート経営されている民間への影響について配慮が必要。一方で、近隣にアパートのない地域への建設については民間では採算性に懸念あることから建設されないことが推察、町で検討いただきたい。 定住促進子育て住宅の整備事業を計画的に進めているので、この事業は有効であると考ええる。 KPI達成に有効となるよう、今後の事業展開に期待したい。 PFI方式は今後の公的事业には欠かせない方式になると感じている。この方式を有効に活用し、定着化させるために専門機関に指導してもらいながら推進することは重要である。
3	定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 家庭から子育て社会の実現「家事・育児シェア応援企画」 実績額：175,000円	<ul style="list-style-type: none"> 目的：子育て支援策の一つとして、男女が協力して家事・育児を行う町づくりを目指す。特に男性の家庭への参画意識を向上し、夫婦、家族間で無理なく納得した家事の在り方に結び付くように啓発する。 事業名：「家事・育児シェア応援企画」 内容：映画「461個のおべんとう」上映会&時短家事コーディネーターを講師として招き、ランチミーティング、トークセッションを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 映画来場客数やトークセッション観覧人数は目標よりも少なかったようだが、一定の成果はあったのではないかと。 男性参加者の意識が変わり、実際に家事・育児への積極的な関わりが増えたのが、女性参加者も家庭での変化があったのか、その後のフォローアップがなければこの企画が有効であるか判断できない。 特に男性の家庭への参画意識を向上させるために特化した事業内容にトークセッションの観覧人数など費用対効果の面でこの事業は有効とは言えない。 男性の家事の参画への啓発活動のきっかけとしては良いと思うが内容が乏しい。
4	定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 高齢者の身体機能維持のための予防と生きがいづくり「大山町・地域コミュニティアクティブ事業」 実績額：1,200,000円	<ul style="list-style-type: none"> (一社)コミュニティウェルビーイング研究所に業務委託。おせっかい人基礎講座、ステップアップ勉強会を開催し、地域で活躍するおせっかい人の人材育成を実施した。 おせっかい人による暮らしの保健室等のボビュレーションアプローチや、個別の相談対応(コミュニティアクティブ)を実施した。 関係機関や地域自主組織同士が情報共有を行い、顔の見えるネットワークを構築するためにシン・福祉ミーティングを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの保健室を町内各所で開催し、多くの人にアプローチしている。おせっかい人の養成も着実に進んでおり、スキルの強化も図っている。シン福祉ミーティングで情報共有や意見交換を行っており、このまま事業を充実させてほしい。 ただ、本当に孤立していたり困難を抱えていたりする人につながっていているか？つながることは難しい面もあると思うが、今後も関係機関と協力しながら引き続き頑張ってもらいたい。 新たなおせっかい人の育成も進み、またおせっかい人のスキルアップ強化も図られているが、リンクワーカーは足りているのか？不足しているならば、更なる支援をお願いしたい。 おせっかい人の活動を通して子育て世帯や孤立傾向にある高齢者など幅広い年齢層の住民たちに必要な支援を実施されており、町民の「健康づくり」に繋がっていると思う。 民生委員と異なり、活動の後ろ盾や責任の所在がはっきりしないため、大きな負担を感じる人も多いのではないだろうか。 大上段に構えることはせず、地域のつながりに対して気を配る人を増やす程度の取り組みとして長く続けていただきたい。

5	<p>定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る暮らしに関する選択肢を広げる 実績額：499,950円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾大学SFC研究所に業務委託。 ・2022年度調査によって明らかになった大山町の若者世代（18～39歳）の人口動態における3つの転換期（進学流出・20代Uターン・30代Uターン）の移住の分析とニーズの分析、および関係人口の移住・活動の要因とプロセスについてインタビュー調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・得られたデータ、報告書内容をどのように町の施策に繋げていくかが重要。 ・成果につながるのはいくつかの行動、その行動の方向性を外部意見として収集できた。 ・若者視点の調査もデータとして有効だと思う。 ・若者世代の転出超過などの課題に対して人口維持についての調査研究をおこなっている事業であるのでこの事業は有効である。 ・最終報告書を見ると、大山町の抱える課題と課題解決のヒントがまとめてあるため、有効な成果物である。
6	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる「大山町産業発展継続事業補助金」 実績額：150,000円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生に資するため町内事業者が、事業を維持継続するために新規事業や事業実施方法の転換、販路拡大等の取組に対する補助を行うことにより、交流人口の増加や雇用等を創出し、地域特性に応じた地域課題の解決につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の増加や雇用の創出に繋がっているのか、すぐに結果は出ないと思うが、事業者の取り組みの支援を継続してもらいたい。 ・町内事業者が事業を維持継続するための補助施策は、町内事業者にとってありがたい施策であるが目標が24件と大きいので実績が3件と伴っていないが、地域課題解決につながっており、この事業は有効である。 ・引き続き新規事業者への金銭的支援も期待するが、地元企業における様々な課題解決に向けた取り組みに対しても町独自の金銭的な補助を充実させていきたい。 ・実績の件数が伸び悩んでいるため目標件数に到達させるためのアイデアや補助事業の継続支援も必要。 ・大山町の代表的なブランドへの支援もあったので、頑張っていたらいい。 ・事業効果を達成させるにはもう少し予算額を増やす必要があるのではないかと感じた。 ・町内事業者の支援をすることで地域課題解決のきっかけとなっていると思うが、補助を受けて開始した事業のその後の状況を知りたい。
7	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる事業承継者育成、人材不足への対応「スキマ時間プロジェクト推進業務」 実績額：489,500円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の「潜在的な労働力」と人手を必要としている農家・農業法人等をマッチングし、人手不足を解消することによって、農業分野における「持続的な経営」と「働き手の多様化」を実現して、農業に関わる人の間口を広げ、農業を軸とした楽しさ自給率の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容は良いと思うが、事業者・働き手ともに利用者が少ないということは何かしらの課題があったと思われる。 ・人手不足の事業者は多くあり、その解消を支援する新たな対応、支援継続が必要。 ・農業やスキー場の運営など繁忙期に人手不足を抱える企業にとっては必要なツールだと感じる。 ・地元企業でも人材不足は深刻。すでに外国人材を採用している企業もあるが、今度益々ニーズは高まっていくものと思われる。外国人材採用費用の補助金、住居確保の支援が必要となる。 ・他アプリの活用や県内外から人材を集める仕組みづくりが必要。 ・事業者、働き手ともに利用が少なかった事で、この事業は有効ではないと考える。 ・既存のアプリの導入等、引き続き人材不足の対応施策をお願いしたい。 ・この事業に関してはマッチング数がすくないので有効とはいえない。
8	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる新たな産業の育成「大山おとなの研究部事業（大山町新たな産業の育成に関するアドバイザー業務等）」 実績額：1,091,750円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題：若者が魅力的に感じる産業が少ない傾向にある。 ・実施目的：起業や創業の意識を高揚させるためのきっかけや環境づくりを進め、大山町の資源（人・コトモノ）を生かした産業を育成するため。 ・計画内容：ビジネス・滞在型観光・オンライン環境の活用に分野を絞り、外部人材を活用し起業へのきっかけづくりや環境づくりにつながる取り組みを実施。新たな人材を発掘し、起業などの産業育成の可能性を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大山おとなの研究部」を立ち上げる機運を醸成し、実際に活動が始まっている。この活動をきっかけとして起業などの産業育成まではなかなか難しいと思うが、事業継続して機運を高めていってほしい。 ・本事業に参加している方が、起業創業に関する補助金申請時は、何らかのインセンティブをつけることを検討しては。 ・活動人材発掘数が5名とあるが、事業実施後、この5名が起業、創業、産業発展に結びつくための取組が必要であると思う。 ・努力は認めるが参加人数が1桁では有効とはいえない。 ・町内のやる気のある若者にターゲットを絞っているのので、有効な活動。取組内容のハードルが高すぎないので、若者の興味を引いているのではないかと。今後は、参加者が将来的に大山町を支えていきたいと思わせるようなセミナーの開催が求められると感じた。
	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる小さな商いや地域商社への支援「町内事業者連携事業業務委託（DAISEN KICKSTART）」 実績額：774,400円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らし、経済、観光、教育など大山町の様々な分野が抱える地域の課題や社会問題をビジネスで解決する人材を育成し、起業や新規事業開発に向けた計画づくりをサポートする「社会起業・新規事業創出支援プロジェクト」。 ・人材の募集から各参加者への人脈形成、アイデアのブラッシュアップ、事業計画の立案までを伴走支援し、大山町を拠点とするコミュニティビジネスやソーシャルビジネス、地域に新たな価値をもたらす社会的事業の創造を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月にわたってのプログラムで、参加者同士の交流も深まっている。講師陣は大山町に関わりの深い人材で、事業プランを実行に移せるように今後もサポートが見込まれるところがよい。 ・R4年度参加者から2件、R5年度参加者からも2件が起業、新商品販売につながり町内産業の発展に貢献した。 ・参加者が町内の他事業者とのつながりができることは、実際に起業してから情報交換や連携等がしやすくなるメリットあり。 ・町内で起業しようとしている若者にとってはいい機会になると思う。

9	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる 観光施策、インバウンドの推進 実績額：4,619,200円（アウトドアアクティビティ造成支援250,000円、観光地域づくり連携体制構築事業2,469,500円、レンタサイクルシステム構築有料検証1,899,700円）</p>	<p>【レンタサイクルシステム構築有料検証】 大山の環境に配慮し、大山の資源を生かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくり推進のため環境負荷の少ない自転車を活用して、海側での観光客滞在時間の延長及び海と山をつなぐ町内周遊観光の促進を図るレンタサイクルシステムの構築及び検証を行った。</p> <p>【観光地域づくり連携体制構築事業】 観光庁が定める候補DMOへの登録を見据え、本町の基礎的な観光実態の把握及び整理、DMO設立に向けた関係者間の検討会議の伴走支援、関係者等に対するDMOについての理解を促進する講習会の開催等を行い、DMO設立に向けた基盤づくりを行った。</p> <p>【アウトドアアクティビティ造成支援】 町内で、アウトドアアクティビティの体験型観光メニューの造成およびモニター実施等に係る経費を支援した。</p>	<p>「大山町レンタサイクルシステム構築有料実証業務」 ・体験プログラムやサイクルツアーを目的に訪れる割合が5割超の結果から、魅力ある企画があれば電動自転車の活用が可能と考える。 ・サイクリストが楽しめる基盤整備に特化して事業を推進していけば事業効果が現れると感じた。そういった意味では貸出拠点をサイクリストの憩いの場として充実させることを再考してはどうか。</p> <p>「大山町観光地域づくり連携体制構築業務（DMO）」 ・大山町における組織体制の方向性（大山観光局の機能強化）が決まり、またアクションプラン案が示され、DMO申請に向けた検討の基礎が構築されたと評価する。 ・観光地域づくり連携体制構築事業は、大山町において必要なDMOの在り方が明らかになったとのことなので、引き続き候補DMOの登録申請に向けて進めてもらいたい。 ・DMO設立に向けた基盤づくりとしての講習会等の実施についての事業として有効である。</p> <p>「大山町アウトドアアクティビティ造成補助金」 ・事業者の活性化に繋がり、新たな顧客を呼び込む呼び水になる支援。 ・大山町でしか体験できない祭りやイベントを絡めたツアー企画及びプロモーションも行うべき ・内容がやや飛躍的な印象を受けたので、ニーズの把握から見直してはどうか。</p>
11	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる 事業承継者育成、人材不足への対応、地元雇用の推進 「大山町空き施設活用創業等支援補助金」 実績額：5,000,000円</p>	<p>・創業、新規事業の展開による地域課題の解決、地域が抱える課題を解決し、地域産業の活性化、地域コミュニティの再生を図る。</p>	<p>・予算規模、事業内容、事業計画の実現性等により全ての応募者に対応は困難であるが、この支援があるから創業に踏み切れる事業者も多くあり、可能な限り継続、拡充をお願いしたい。 ・町内で起業を検討する人も増加傾向との事なので継続的に事業を展開すべき。 ・町の課題である空き家を活用して起業、創業において大変、効果的である。 ・創業者も確実に事業実施をおこなっており今後も大山町で起業するきっかけになる施策なので引き続き実施してほしい。 ・ニーズを鑑み今後は、空き家活用に限定せず、新築等も検討して頂きたい。 ・空き家の有効活用に加え、新規創業者の確保が同時に行え、大変貴重な取り組みである。これまでの創業者も継続して営業しているということで、事業効果も高い。 ・空き家を使うことに意味があるので、今後もこのスキームで支援を継続していただきたい。ただし資材費も高騰しており、支援額の引き上げも検討していただきたい。</p>